

# 聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール  
聖母の小さな学校  
2020年  
10月1日発行  
第221号

## さあ、ありのままの自分を受け止め、勇気を持って歩みだそう！

さわやかな実りの秋を迎えました。平素は、聖母の小さな学校の教育にご理解とご協力をいただき、深く感謝いたしております。

さて、本校には現在4名の通学生と3名の相談の生徒がおります。生徒たちは一人ひとりにふさわしい歩みを続けており、2年余り家から出にくかった生徒も、今学期「聖母に行こう」という行動が見られます。登校もできました。また、2年間、聖母へ登校する努力を続けていた生徒は、聖母での時間を30分、1時間と増やし、今では午前中しっかり授業が受けられるようになりました。毎日登校することの継続、また、今、自分が取り組まなければならない学習を意識して学校生活ができるようになった生徒、それぞれですが、社会的自立に向かう各々の成長のレールに乗ったように見えます。

10月10日（土）の「スポーツフェスタ」のテーマを決めるために、2学期の始まりからずっと「不登校になってからの自分、また、それまでの自分」即ち、「自分自身のありのままをつかむ」練習をしてきました。自分自身の行動や内面を見、表面的なことではなく、本当は自分はどうのように思っているのか、考えているのか、またどのように感じているのか、などを腹の底から絞り出すように出していく、大変な作業でした。その中で生徒たちは、蓋をしていた自分の姿＝「自分は学校に行けないこと」「人の中にいると人の目が怖くていられないこと」など、「ありのままの自分」に気づいていきました。子どもたちにとり、ありのままの自分を見ることは、不登校という、人や社会からは「望まれもしない自分」「求められることのない自分」「価値のない自分」を目の当たりにすることでした。「絶望的だ」「死んだほうがいい」「生きていく価値はない」と思っていたことを、仲間に話し共有できたことは、それぞれが更に深い自分の思いに気づくことにつながりました。このように人間の深みに入っていくと、生徒たちは、他人の目や社会の価値観を越えた目で自分を感じるようです。苦しい中に、明るさが見えるようになりました。スポーツフェスタのテーマは

**現実の自分から逃げることは大丈夫と自分に思い込ませていた。  
けど、逃げ切れないと分かった。  
焦った。どうしていいか分からず、苦しかった。  
でも、自分はやっていく！**

となりました。生徒一人ひとりの言葉です。ここからスポーツフェスタ以降の学びが始められることをうれしく思います。

本校の教育の集大成的行事である「スポーツフェスタ」は今年度、新型コロナウイルス感染防止のため、「学校に於ける新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～」（2020.8.6.文部科学省）に則って実施しなければなりません。人数、内容等を縮小することになります。ご協力をよろしくお願いいたします。

### <今月の主な行事>

3日（土）グラウンド整備	23日（金）陶芸教室
10日（土）スポーツフェスタ	26日（月）華道教室
16日（金）月例保護者会	30日（金）音楽（ギター教室）